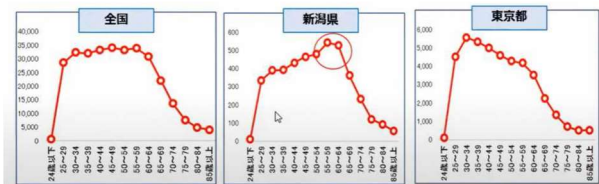


新潟県・全国の医師の年齢構成  
(平成30年 医師、歯科医師、薬剤師統計)



新潟県は、医師が少ないうえに、高齢化が進んでいます。若い医師は研修先として東京などの大都市圏に集まっているようです(上図右)。新潟県も真剣に若い医師に働いていただく方策を考えなければいけないと思います。グラフを見ると、このままでは、新潟県の医師は10年後にさらに減少するものと思われる(上図中央、新潟県の医師のボリュームゾーンは55歳から64歳です)。新潟市に救急車を年間8000台以上受け入れる救急拠点病院として済生会新潟病院が県医師会から選定されましたが、こうした拠点病院を作ろうという発想は、さらなる医師不足が予想されるためでもあります。

当院では、6月23日から遠藤栄一医師に、毎週木曜日(午前・午後)内科外来診療を担当いただいています。先生は、社会人を経験されてから、富山医科薬科大学に入学、平成13年にご卒業され、内科一般を専門になさっている医師です。

9月1日から山田麻理奈医師が産休に入られますが、同日より、現在、新発田にある北越病院の病院長をされている佐藤良智医師が一般内科医師として当院に就職されます。基本的に山田医師の外来業務を引き継いでいただく予定です。また来月号で報告させていただきます。

さて、新型コロナウイルス感染症が全国的・新潟県で再流行してきています。皆様方も普段からの感染予防を心がけていただき、当院に入

る際にはマスクを必ず着用するようにお願いします。なお現在、入院患者さんへの面会は、当院のルールを守っていただければ許可していますが、今後大流行となった場合は変更するかもしれません。



現在、新潟市新津美術館で、ユトリ口展が開催されています(8月27日まで)。ユトリ口は、主に哀愁漂うパリの風景を描いた画家で、生誕140年記念展として行われています。新津美術館はエントランスもきれいで(写真上)そこだけでも見る価値があります。プチ自慢ですが、私・宮島が医学部2年生の時だったか、解剖学の実習のスケッチ(カエルの開腹図など)が大学教授から優秀賞(3等賞だったかな)と評価され、ご褒美としてユトリ口の画集をいただきました。以降“推し”になり、今回美術館へ足を運んだ次第です。



五泉市の、五泉八幡宮という神社では、風鈴やカラーのアンブレラ(傘)、シャボン玉などで徹底的に“映え”を狙って演出を行っています。神社でこれだけやるのなら、病院でも……。

発行責任者・文責：豊栄病院病院長 宮島 透